



営農NEWS



バレイシヨの疫病、アブラムシ類などの発生に 注意し、防除を励行しましょう

今年のバレイシヨ栽培では、現在のところ、多くは順調な生育で推移しています。

これから開花期に入っていきますが、開花期以降は疫病が発生しやすくなります。なお、気象の1ヵ月予報(5月7日)によりますと、今後、天気は数日の周期で変わりますが、平年に比べ晴れの日が少なく、降水量は平年並みまたは多い確率40%、日照時間も平年並みまたは少ない確率40%と、疫病が発生しやすい条件になる恐れがあります。このため、今後の天候の変動に十分注意して、降雨日が多い場合には予防散布や発生初期の防除を必ず実施してください。

また、バレイシヨに寄生するアブラムシ類は、直接的な吸汁被害を生じる他にウイルスを媒介してモザイク病を発生させますので、アブラムシ類の発生初期からの防除が必要になります。なお、モザイク病に感染した株は回復の見込みが無く、他への伝染源となりますので、早急に抜き取り、適切に処分してください。

これら疫病、アブラムシ類などは被害の進展が早急なため、圃場をよく観察して早期発見に努め、必要に応じて適切な防除に努めてください。

<防除のポイント>

1. 疫病

- 1) 開花期以降になると発病しやすくなるので、開花はじめから薬剤防除を実施してください。天候が不安定で、降雨が続くような場合には、定期的な薬剤散布に努めてください。疫病は多発生してからでは防除が困難となりますので、予防散布または発生初期の防除が重要になります。
- 2) 窒素肥料の効きすぎや軟弱徒長の株は発病しやすいので、特に注意が必要です。
- 3) 薬剤散布は十分量(200ℓ/10a)の薬液で、葉裏や株元にもよくかかるよう丁寧に行うことが特に重要です。
- 4) 収穫期に降雨があると、イモに病原菌が流れて感染し、表面にやや陥没した褐色病斑が形成されて商品価値を失う場合があります。収穫後の被害を抑制するため、収穫は晴天の日を選び、乾いた後に貯蔵しましょう。

2. アブラムシ類、モザイク病

- 1) 圃場周辺の雑草は、アブラムシ類の飛来源やウイルスの保毒源となりますので、常に除草に心がけ、圃場衛生に努めましょう。
- 2) モザイク病の発病株は早急に抜き取り、近くに放置せずに土中深く埋めるか、圃場外に持ち出して適切に処分してください。

表1 バレイシヨ 疫病の主な防除薬剤(平成27年5月12日現在)

薬剤名	希釈倍数	使用時期 / 使用回数
フォリオゴールド	500~1,000倍	収穫7日前まで / 3回以内
プロポーズ顆粒水和剤	750~1,000倍	収穫7日前まで / 3回以内
カーゼートPZ水和剤	600~800倍	収穫7日前まで / 4回以内
ブリザード水和剤	800~1,500倍	収穫7日前まで / 4回以内
ランマンフロアブル	1,000~2,000倍	収穫7日前まで / 4回以内
レーバスフロアブル	1,500~2,000倍	収穫7日前まで / 2回以内
ジマンダイセン水和剤	400~600倍	収穫7日前まで / 10回以内
ダコニール1000	500~1,000倍	収穫7日前まで / 5回以内
ザンプロDMフロアブル	1,000~1,500倍	収穫前日まで / 3回以内

表2 バレイシヨ アブラムシ類の主な防除薬剤(平成27年5月12日現在)

薬剤名	希釈倍数	使用時期 / 使用回数
アドマイヤー水和剤	1,000~3,000倍	収穫14日前まで / 2回以内
チェス顆粒水和剤	5,000倍	収穫14日前まで / 3回以内
コルト顆粒水和剤	4,000~8,000倍	収穫前日まで / 3回以内
スミチオン乳剤	1,000倍	収穫3日前まで / 6回以内
ダントツ水溶剤	4,000倍	収穫7日前まで / 3回以内
アディオン乳剤	2,000~3,000倍	収穫14日前まで / 4回以内

農薬使用の際は、必ずラベル及び登録変更に関するチラシ等の記載内容を確認し、飛散に注意して使用して下さい。



生産資材部 営農企画課

電話：029-291-1012 FAX：029-291-1040